

京都文化交流 コンベンションビューロー通信

7²⁰²¹
月号

KYOTO
TRADITION MEETS INNOVATION

CONTENTS

P1…京都 MICE 基金の創設・運用開始について

P2…2020 年国際会議等開催状況

P3…【お知らせ】新型コロナウイルス関連の京都府・京都市の補助金について

P4…9月3日 第一回「古典の日文文化基金賞」授賞式開催

KYOTO
MICE FUND
京都 MICE 基金

MICE 京都 MICE 基金の創設・運用開始について

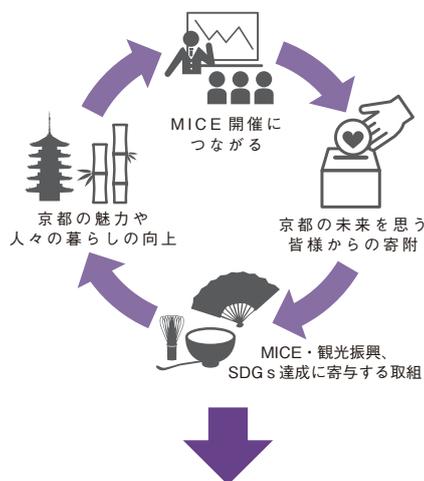
本年6月4日に、国際会議など MICE による地域貢献を促進するため、京都府・京都市の協力の下、「京都 MICE 基金」を創設し、運用を開始いたしました。

本基金は、国際会議や企業ミーティングなどの参加者、主催団体、企業等から京都での MICE 開催を通じて、京都の有形無形の文化や自然、生活様式などを持続可能なものとするに共感・理解いただき、寄附を募るものであり、全国でも初めての試みとなります。

当ビューローでは、本基金の運用を通じて、京都の多彩な文化・芸術や豊かな自然環境、美しい景観の保全・継承・活用を図り、京都の魅力や人々の暮らしの向上、MICE・観光振興及び SDGs 達成に寄与する取り組みへの支援・貢献を行ってまいります。

京都 MICE 基金概要

- | | |
|-----------|---|
| 1 基金名称 | 京都 MICE 基金 |
| 2 寄附方法 | 銀行振込、クレジットカード、募金箱 |
| 3 募金箱設置個所 | 国際会館、みやこめっせ等、MICE 施設
15 か所予定 |
| 4 運営 | 京都文化交流コンベンションビューロー
国際観光コンベンション部
TEL : 075-353-3053
e-Mail : micefund@helloworld.or.jp
※ホームページ (https://meetkyoto.jp/ja/kyoto/fund/) |
| 5 備考 | 寄附方法、募金箱設置個所は順次拡大予定 |



MICE開催の増加による
京都市民への地域貢献・還元



当ビューローは、京都市が2013年に日本のMICE誘致をけん引する「グローバルMICE都市」として選定されたことを踏まえ、2014年に策定された「京都市MICE戦略2020」で掲げた2つの目標(2020年までに「コンベンション開催件数：世界35位」「外国人参加者比率の国内順位：1位の堅持」)の達成に向け、積極的にMICE誘致に取り組んでまいりました。

その結果、2019年の統計において、両目標を1年前倒しで達成いたしました。行政、関連団体、大学、会議・宿泊施設、PCO、旅行会社等のステークホルダーと密に連携し、誘致・開催に係る各種取り組みを行ってきた成果と考えております。この場をお借りいたしまして、厚く御礼申し上げます。

しかし、2020年2月頃より新型コロナウイルス感染症拡大の影響が出始め、国内でも緊急事態宣言の発出や入国制限、イベント開催制限等によって、多くのMICEが中止・延期となり、開催件数は京都市域で28件(前年比92.7%減)、市域を除く京都府域で3件(前年比81.2%減)と、過去最低の数値となり、特に、入国制限が行われた3月

中旬以降、全世界からの入国制限が緩和されるまでの約6か月間は、統計史上初めて国際会議の開催が完全にゼロとなりました。

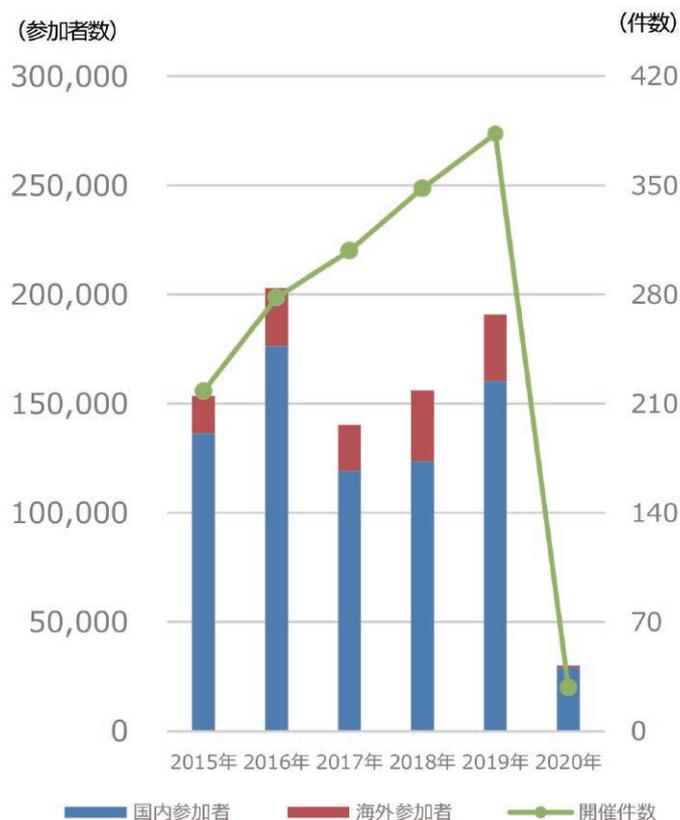
10月の入国制限緩和以降は、ハイブリッド形式(オンライン+現地開催)で4件開催されましたが、海外からの参加者は日本入国後の隔離等の影響によってごくわずかとなったほか、開催手法もこれまでの現地開催のみの形式から、現地開催をせずオンラインで配信する形式、オンライン配信と現地開催の両方を行うハイブリッド形式と開催スタイルにも変化が生まれ、開催地に来ることなく会議に参加できるようにもなっています。

そのような中、当ビューローでは、コロナ禍でも現地で開催される主催者や、受け入れ施設を支援するため、新しい補助制度を創設するとともに、感染拡大防止対策と京都らしいMICEの在り方を提案する「MICE京都モデル」を策定するなど、感染者を1人も出すことなく、ウィズコロナ時代の安心・安全な新しいMICEの開催支援を継続しています。

また、国際会議の基準は満たしませんが、参加者が日本人のみである国内学会は昨年8月以降継続的に開催されており、現地での人と人との交流も続いているところです。

当ビューローでは、中止・延期となった案件へのフォローを怠ることなく、京都府・京都市・京都商工会議所・国立京都国際会館等の関係各機関、会員企業・団体の皆様との連携を一層強化し、国内・国際会議の誘致、安心・安全な開催の支援に引き続き努めてまいります。

年別開催件数・参加者数(京都市域)



コロナ禍における会議開催時の様子

京都府・京都市におかれましては、新型コロナウイルス感染症の再拡大に伴う緊急事態宣言の発出等により、影響を受けている事業者等を支援し、京都経済の回復を後押しするために様々な支援制度が設けられているところですが、以下の補助金については受付期限が迫っております。

受付期間は、宿泊施設事業継続緊急支援事業補助金については7月21日（水）まで、京都市中小企業等再起支援補助金については7月30日（金）までとなっておりますので、申請をお考えの場合はお早めのお手続きをお願いいたします。

◎宿泊施設事業継続緊急支援事業補助金

府内の宿泊事業者が実施する新型コロナウイルス感染拡大防止に資する物品等の購入、新しい生活様式に対応したサービス提供のためのコンテンツ開発や新たな事業展開のための前向きな投資に対し、必要な経費の一部を補助

- ・受付期間：7月21日（水）まで
 - ・対象：京都府内の宿泊施設
 - ・補助対象事業・補助率：
 - ①感染拡大防止等支援事業（令和2年5月14日以降の取組が対象）
補助率1/2以内（補助上限500万円）
例）サーモグラフィーの購入、アルコール除菌や抗菌加工、換気設備の導入、プロモーション等のコンテンツ開発、ワーケーション環境整備等
 - ②戦略的投資支援事業（令和3年6月16日以降の取組が対象）
補助率3/4以内（補助上限750万円）
例）ワーケーション環境整備、キャッシュレス・非接触システム機器の導入等
- ※①は宿泊施設の規模に応じた補助上限あり
※補助対象経費が30万円を超える事業が対象
※①②併用の場合の補助上限は750万円
- ・問合せ：050-3033-0172 9：30～17：30（土日祝除く）

詳細はこちらから→



◎京都市中小企業等再起支援補助金

令和2年12月から令和3年3月の間の任意のひと月の売上高が対前年又は前々年同期比50%以上減少している中小企業や個人事業者等（時短要請協力金の対象事業者を除く）を対象に感染症対策や事業を継続させるための経費を補助
※文化芸術、スポーツ等に携わる中小企業、個人事業者の方も対象

- ・受付期間：7月30日（金）まで
- ・対象経費：「感染症対策」、「事業・経営改革」、「販路開拓、売上向上、事業継続を図るための取組」で、3月1日～7月16日に完了・支払い等がなされた経費
※3月1日以降の新たな雇用や契約に係る府内在住者の人件費や京都市内に所在する物件の家賃も対象となります。
- ・補助額：対象経費の3/4（上限額：法人・団体15万円、個人事業者10万円）
- ・問合せ：0570-003-756 9：00～17：00（土日祝除く）

詳細はこちらから→



「古典の日文化基金賞顕彰委員会」会長の村田純一です。

私は、平成20年の「源氏物語千年紀」以来、微力ながら古典文化の普及に努め、4年後には「古典の日に関する法律」も制定されました。しかし、古典という堅苦しく、難しいものという先入観が強く、大学でも古典文学を学ぶ学生が減り続け、次世代の日本文化を担う若者たちの古典離れが続いています。誠に残念なことと思います。同じ思いを持つ芳賀徹先生（誠に残念ながら昨年2月にご逝去されましたが）からご示唆をいただき、全国各地で古典文化の振興に取り組む人々を顕彰し、励ますための賞を設立することとなりました。

この賞は「三つの分野、三つの活動、三つの目標」を掲げています。

まず「三つの分野」ですが、日本の古典文化を「文学・思想」、「伝統芸能・音楽」、「美術・生活文化」の三つに分け、それぞれのジャンル毎に顕彰いたします。優れた伝統文化としての古典の枠組みを、できる限り広げてゆきたいという趣旨です。

次に、「三つの活動」ですが、本来の「研究活動」の他に、普及活動、啓発活動を掲げています。古典を身近な、親しみのあるものとして広げていく「普及活動」、そして、児童・生徒・学生など、次世代の若者たちへ古典のすばらしさを伝えるための「啓発活動」です。

そして「三つの目標」は、「11月1日・古典の日の更なる全国展開」、「誰もが身近に親しめる古典」、「優れた古典の次世代への継承」です。

古典は『源氏物語』や『枕草子』だけではありません。北海道の「ユウカラ」から沖縄の「組踊」まで、優れた民族の遺産ともいべき古典が全国に存在します。この賞が、日本人の叡智の結晶であり、日本人の美意識の源泉ともいえる古典の普及、活性化に役立つことを願い、日本の古典文化振興のために力を尽くしている全国の皆様の励みとなる賞でありたいと念じています。



なぜ、9月3日?



「ねえ、ねえ、もつときかせてよ」

■作品クレジット（金箔なし）

タイトル：「山本容子と姫君たち」より「行火」

技法：ソフトグラウンドエッチング、手彩色

用紙：和紙、雁皮紙刷り 制作年：2009年

イメージサイズ：30×20mm

平安時代中頃に書かれた『更級日記』の作者、菅原孝標女は少女の頃から華やかで美しい世界が描かれた『源氏物語』等に興味を抱きます。父の赴任先、上総国（現：千葉県）で姉や継母に都で読まれている話をしてほしいとせがむのですが、思うように語られないじれったさを感じ、薬師如来に「早く京都に行かせて、ある限りの物語をたくさん読ませてください」と祈りました。その念願が叶い、とうとう都に行く希望に満ちた門出が9月3日であったと記されています。孝標女が心躍り都に旅立つこの日を「古典の日文化基金賞」の幕開けといたしました。

〈古典の日文化基金賞〉体制

主催：古典の日文化基金賞顕彰委員会

後援：京都府 京都市 NHK

協力：文化庁地域文化創生本部 古典の日推進委員会

古典の日文化基金賞顕彰委員会		
名誉総裁	彬子女王殿下	
顧問	千 玄室	裏千家 前家元・古典の日推進よびかけ人代表
	瀬戸内 寂聴	作家
	中西 進	京都市立芸術大学名誉教授
	高階 秀爾	大原美術館館長
会長	木津川 計	立命館大学名誉教授
	村田 純一	古典の日推進委員会会長
委員	西脇 隆俊	京都府知事
	門川 大作	京都市長
	松村 淳子	宇治市長
	塚本 能交	京都商工会議所会頭

古典の日文化基金賞選考委員会		
委員長	村田 純一	古典の日文化基金賞顕彰委員会会長
副委員長	藤谷 壽	公益財団法人古代学協会理事長
委員	井上 八千代	京舞井上流五世家元
	葛西 聖司	古典芸能解説者
	熊倉 功夫	MIHO MUSEUM 館長
	檀 ふみ	俳優
	東儀 秀樹	雅楽師
オブザーバー	冷泉 貴美子	公益財団法人冷泉家時雨亭文庫常務理事
	安井 順一郎	文化庁 地域文化創生本部事務局長

候補者情報調査会		
座長	山本 壯太	古典の日推進委員会ゼネラルプロデューサー
委員	栗原 祐司	京都国立博物館副館長
	小林 一彦	京都産業大学文化学部教授
	田口 章子	京都芸術大学教授
	濱崎 加奈子	京都府立大学准教授